



Title	田川弘雄教授 経歴・研究業績
Author(s)	
Citation	大阪外大英米研究. 1999, 23, p. 3-6
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/99212">https://hdl.handle.net/11094/99212</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



田 川 弘 雄 先生

## 田川 弘雄 教授 経歴

- 昭和8(1933).6.20 大阪府に生まれる
- 昭和31(1956).3 大阪外国語大学英語学科 卒業
- 昭和31(1956).4 浪速高等学校講師
- 昭和34(1959).4 明星高等学校講師
- 昭和36(1961).3 関西学院大学大学院文学研究科(修士課程米文学専攻)  
修了
- 昭和37(1962).4 近畿大学専任講師(英語・文学)
- 昭和39(1964).8 フルブライト留学生として渡米、ニューヨーク大学大  
学院で米文学研修
- 昭和41(1966).10 近畿大学助教授(英語・文学)
- 昭和42(1967).4 大阪外国語大学助教授外国語学部(英語・文学)
- 昭和51(1976).4 大阪外国語大学大学院外国語学研究科担当
- 昭和52(1977).1 大阪外国語大学教授外国語学部(英語・文学)
- 昭和53(1978).2 香港大学客員教授(国際交流基金により派遣～8月まで)  
(この間、米国イエール大学、コロンビア大学などに研究員として数回にわ  
たって留学)
- 平成11(1999).3 定年退官

## 田川 弘雄 教授 研究業績

### I 著書

- 『Riddle and Quiz in English: 英語のクイズ』、創元社、昭和47(1972)  
『視座と構築』、篠崎書林、昭和59(1984) (共同執筆)  
『英語英米文学ハンドブック』、創元社、昭和63(1988) (共同執筆)  
『ビジネスマンの英会話』、研究社出版、昭和63(1988) (共同執筆)  
『モダン・アメリカン・ドラマ』、研究社出版、平成1(1989) (共同執筆)  
『アメリカ演劇の世界』、研究社出版、平成2(1990) (共同執筆)  
『現代英米の劇作家たち』、英潮社新社、平成2(1990) (共同執筆)

### II 論文

- A Study of Mourning Becomes Electra* (修士論文)、昭和36(1961)  
「ユージン・オニールのテーマの発生と発展」『芸文』(近畿大学紀要) 英文特集、昭和37(1962)  
「アメリカ演劇の現状と将来について」『芸文』7巻1号、昭和41(1966)  
“An Existentialist’s View on the Heroine of *The Sun Also Rises*,” 『芸文』7巻2号、昭和42(1967)  
「アメリカ文化の表現としてのFamily Play」『大阪外国語大学学報』21、昭和44(1969)  
「60年代のアメリカ演劇の動向—Arthur L. Kopitの場合」『大阪外国語大学学報』22、昭和45(1970)  
「*The Zoo Story*再考：オニール、ベケットの一幕物との比較」大阪外大『英米研究』7、昭和46(1971)  
「オニール『終わりなき日々』—結末についての伝記的考察」『大阪外国語大学学報』29、昭和48(1973)

- 「ユージン・オニール『偉大なる神ブラウン』の草稿についての考察」大阪外大『英米研究』8、昭和49(1974)
- 「Work Diaryにみるオニールの夫婦愛」大阪外大『英米研究』9、昭和50(1975)
- 「アメリカ演劇の未来を占う」『会報(日本アメリカ文学会)』XIV、昭和51(1976)
- 「アメリカ演劇過去15年の軌跡—KopitとAlbeeの歩んだ道—」大阪外大『英米研究』10、昭和52(1977)
- 「アメリカ近代劇におけるネミシスの役割について」『大阪外国語大学学報』57、昭和57(1982)
- 「オルビーはもう駄目なのだろうか—Listening, Counting the Ways論」大阪外大『英米研究』13、昭和58(1983)
- 「エドワード・オルビーの不振の原因」『悲劇と喜劇』早川書房、昭和58(1983)
- “A Comparative Study of the Late Plays of O'Neill and Albee”、『大阪外国語大学学報』64、昭和59(1984)
- 「Shepardの劇の登場人物間コミュニケーション—オニール、オルビー、シェパードの比較—」大阪外大『英米研究』14、昭和60(1985)
- 「エドワード・オルビー『海景』以後の不調」『アメリカ演劇』1、法政大学出版局
- 「アメリカ演劇の誕生と発展—18、19世紀の演劇事情」大阪外大『英米研究』15、昭和62(1987)
- 「黒人演劇に見られる二面性—Ed Bullinsを中心として」大阪外大『英米研究』16、昭和63(1988)
- 「現代アメリカ演劇への一考察:ジョージ・カフマンの喜劇をめぐって」(資料集)大阪外大『英米研究』19、平成6(1994)

Ⅲ 日本文学英訳

『広野(あらの)』堀辰雄、*The Reeds* 13、昭和46(1971)

『玉 散る』開高健、*The Reeds* 15、昭和54(1979)

『墨』有吉佐和子、*The Reeds* 17、昭和60(1985)

『蜩川(の一部)』宮本輝、*The Reeds* 18、昭和62(1987)

『兎と亀』向田邦子、*The Reeds* 20、平成8(1996)

Ⅳ その他

(注釈書)

*The Subject Was Roses* by F. Gilroy、南雲堂、昭和43(1968)

*The Temper of Our Time* by E.Hoffer、文理書院、昭和45(1970)

Ⅴ 学会活動、社会活動など

日本英文学会会員、日本アメリカ文学会会員(昭和55～関西支部評議員)、日本アメリカ演劇研究者会議会員、国際ロータリー・クラブ会員(現在休会中)、American Society for Theatre Research会員など